



東京歯科大学広報



新入生を代表して宣誓する阪上隆洋君：平成23年4月12日(火)、千葉校舎講堂

■平成23年度東京歯科大学入学式

平成23年4月12日(火)午後1時より、千葉校舎講堂において平成23年度東京歯科大学入学式が、熱田俊之助理事長、金子 譲学長をはじめ法人役員、大学役職者、教職員、父兄会役員及び同窓会役員、新入生保護者が出席のもとに、厳かに挙行された。

例年は4月5日に行われることが慣例であったが、今年は3月11日に起きた東日本大震災の影響で一週間延期をしての挙行となった。

開式に先立ち東日本大震災の被災者に対するお見舞と不幸にもお亡くなりになられた方々に対し黙祷が捧げられた。

2011年4・5月

248号

本号の主な内容

- ・平成23年度東京歯科大学入学式…………… 1
- ・法人評議員の改選…………… 6
- ・平成23年度大学院新入生学内総合セミナー…………… 17
- ・平成23年度歯科衛生士専門学校入学式…………… 19

式は佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、現役部員およびOBによる本学管弦楽部校歌演奏・混声合唱部の合唱に続いて国歌を斉唱した後、河田英司教務部長が新生128名と第2学年の編入学者9名を一人一人呼名して紹介が行われた。

次いで金子学長から訓辞、熱田理事長から祝辞が述べられ、新生代表の阪上隆洋君が元気な声で宣誓を行い、新生代表の齋藤菜月さんに校章が手渡された。齋藤さんはスーツ左襟に校章を着装して、会場の新生、保護者、教職員に披露した。最後は出席者全員で校歌を斉唱し、滞りなく入学式を終了した。

入学式終了後、河田教務部長から式に参列したご来賓及び教員の紹介が行われた。

その後、新生は、クラス毎に分かれ、クラス主任、副主任と対面した後、自己紹介等が行われ新しい学生生活の第一歩を踏み出した。編入学者は、一足先に4月6日(水)に実施された第2学年のオリエンテーションに合流していたが、節目の行事である入学式を終え、気分新たに学生生活をスタートさせた。

なお、当日午前11時より新生の保護者を対象

とした学内施設見学を実施しており、マルチメディアに対応した第1教室や臨床基礎実習室、保存科、口腔インプラント科診察室等の施設を見て回った。ご子弟の教育環境と、学生生活の一端に触れる数少ない機会ということもあり、今年も多くの保護者が参加された。



訓辞を述べる金子学長:平成23年4月12日(火)、千葉校舎講堂



校章を授けられ披露する新生代表 齋藤菜月さん:平成23年4月12日(火)、千葉校舎講堂



祝辞を述べる熱田理事長:平成23年4月12日(火)、千葉校舎講堂



緊張の面持ちで校歌を斉唱する新生:平成23年4月12日(火)、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学
学 長 金子 讓

新入生の皆さん、東京歯科大学への入学おめでとうございます。大災害のために1週間予定より遅らせた入学式になりましたが、本日ここに皆さんが出席できたことは幸いであります。これだけの大きな地震と津波でしたので皆さんの中には親類縁者・知人の方々がご不幸に遭われたこともあろうかと思えます。心からお見舞いを申し上げます。

東京歯科大学は昨年創立120年を迎え、各種の行事をいたしました。人は60歳になると還暦といい、仮に120歳が迎えられれば、これを大還暦と呼びます。東京歯科大学はこの大還暦を節目として21世紀の新しい時代に適合させた大学に発展させるべく再出発をしたところです。

皆さんは、ちょうどこのような歴史的な時期に入学いたしました。今日からの6年間の学生生活は、皆さんが生涯の職業とする歯科医療、あるいは教育研究の基盤づくりとなります。大学の皆さんにたいする使命はこれから挙げる4つのことであります。一つは、皆さんを教養ある社会人になるよう育成することです。次に質の高い専門家になるよう養成いたします。さらに大学は皆さんに知識・技術を伝達するだけでなく、皆さんが新しい知見を創造できるよう訓練いたします。そして最後に皆さんの多様な人生設計への支援をすることです。したがって、皆さんは大学のカリキュラムの意味を理解して、知識の勉強だけでなく、大学が用意しているさまざまなイベントに積極的に参加してください。日々の生活を前向きに取り組む集積が、自己を認識し自己を確立していきます。また、本学は東京歯科大学の使命をさらに進めるための教育機関として4年間の博士コースである大学院を活動させております。

本学は1890年明治23年に高山紀齋によって設立され、その10年後に血脇守之助が継承して発展してきた大学であります。私たちの先達は、当時米国から歯科医療・医学を導入し、高度の教育機関を設立したことによって継続的に歯科医師の養成をしてきました。このことは本学が明治時代における日本の近代化に大きな貢献をしたことを意味します。また、その過程であたらしい職業である歯科医師の法的な身分確立を明治政府にさせてもおります。東京歯科大学がわが国で最古の歴史をもつことは、道なき道を開拓してきたということでもあります。この「開拓精神」こそが、本学の伝統であります。

皆さんがこれから勉強するのは、医学系の自然科学だけではなく、病気になりますとその心配は日常生活に影響いたしますが、これは病の重症度だけで決まるわけではなく、患者さんの性格や生活環境によるところが多いのです。つまり千差万別だということで、こうした多様な心理状況に皆さんは患者さんごとに対応して、患者さんに普段の生活を取り戻させなければなりません。患った疾患を治すだけでは病人を治していることにならないということです。従いまして、皆さんの勉強は専門的な歯科医学だけでは完結せず、人文科学・社会学の勉強も必要とされます。患者さんに信頼される歯科医師にならなければ治療の効果は上がりにくいのです。とくに子供の時代からお年をとるまで長いこと患者さんの口腔管理を一人の歯科医師がすることが多いという職業的な特徴から、皆さんが歯科医師になった後には、皆さんの人間力が問われることになります。

「歯科医師である前に人間であれ」と血脇守之助先生は当時の学生にいられた。今ではこの言葉は本学の教育指針となっています。職業を離れても教養のある紳士淑女でなければならない。皆さんの一人ひとりが自尊自立の社会人という土台のうえに歯科医師という職業が成り立っていることを忘れてはなりません。

歯科医師という職業は、医療、研究、教育という面できわめて国際性の強い性格をもっています。皆さんの活躍する21世紀は、20世紀とは異なった価値観、進歩を止めない科学、ボーダレスになる各国、その反面自己の存在確認のための民族・宗教意識の高揚などによる軋轢紛争などの中でグローバル化は進展し、

いきおいそのグローバル化は一般市民としても身近になります。つまり皆さんは、職業的にも市民としても国際性、あるいはグローバル性という他文化との接触を避けては通れなくなります。こうしたことから東京歯科大学の卒業生は国際人としても指導者になりえるように、本学は体験的に国際性を養う新しいカリキュラムも組みたてています。

皆さんは、勉学する中で、あらゆる細胞の分子単位のところで驚くべき精緻な仕組みがなされている生命の神秘さに気づかされるでしょうし、そうした解明が歯科での再生医療や遺伝子治療の創生に応用されており、口腔の機能が健全に営まれていることが全身の健康に深く結びついていることなど、新しい発見から歯科と医科との協働作業も進んでおります。このような現状は皆さんの抱いていた歯科にたいするイメージを大いに変えるかもしれません。日本の超高齢社会における歯科医療の役割も焦点が定まってきました。皆さんは将来の歯科医療を担い、さらには開拓する大事な人材であります。

われわれは来年の新入生を水道橋に迎えます。皆さんもこの稲毛で2年間勉学した後、水道橋に移ります。東京歯科大学はメインキャンパスをこの稲毛から水道橋に移し、医科病院として千葉県拠点病院になっている市川総合病院と移転後の稲毛の医療施設とのトライアングルで教育、研究、地域医療を高いレベルで行っていきます。皆さんは、その中で大いに勉強し、スポーツをし、読書をし、文化的活動などで学生生活を満喫してください。皆さんのもって生まれた資質と大学生活で養われたものごとがあいまって豊かな人間に育ってくれることを願って、訓辞といたします。

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 熱田 俊之助

まずはじめに東日本大震災で被災された皆様に対し衷心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い被災地の復興をお祈りいたします。

改めまして、東京歯科大学入学式にあたり、法人を代表し、新入生の皆さん、並びに保護者の方々に心よりお祝い申し上げます。ご入学、誠におめでとうございます。

新入生の諸君は、厳しい難関を突破して本日晴れてご入学を果たされました。全国各地から歯科医師という同じ志のもと、本学に集まったわけでございまして、お互いに切磋琢磨しながら、まず学業に邁進していただきたいと思います。

またこれから6年間は、スポーツに、文化活動にも積極的に参加し、先輩に学び、友情を育んでほしいと思います。まちがいなく、それは、皆さんの生涯を支える大きな財産になります。

本学は明治23年に創立された我が国最古の歯科医学教育機関であり、平成22年には創立120周年という節目の年を迎えました。建学者である血脇守之助先生は「歯科医師たる前に人間たれ」という人間教育を重視した「血脇イズム」を唱え、世界的な細菌学者・野口英世博士をはじめ、多くの優秀な人材を輩出しております。東京歯科大学を措いて日本の歯科医学を語ることはできません。皆さんはこの伝統を承継し、世界に冠たる東京歯科大学を支え、更に素晴らしい大学に育てていって頂きたいと思っております。

選抜高校野球で創志学園の野山主将は「人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えられると信じております。生かされている命に感謝し、全身全霊、正々堂々とプレーすることを誓います」と、力強く宣誓し、多くの人に感動と勇気を与えました。医療人としてのスタートを切る皆さんも、「人とのつながり」を学び、互いに支え合い、かがやき合いながら学生生活を満喫することを願います。

これからの皆さんの揚々たる未来の中で、本学で過ごされる一日一日を大切に送られて、魅力溢れる人間となられるように、そして一層大きく成長されることを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

宣 誓

新入生代表
阪上 隆洋

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

■法人評議員の改選

平成23年3月31日をもって本法人寄附行為第20条第2項第2号、同第3号及び同第4号に規定する評議員が任期満了を迎えるにあたり、平成23年3月24日（木）に開催した第670回理事会において下記の方々が評議員に選任された。評議員委嘱期間は平成23年4月1日から平成26年3月31日までの3年間となる。

今回の改選では、これまで第2号評議員をお務めいただいた吉峯規雄評議員、第3号評議員をお務めいただいた川島 康評議員、後藤次夫評議員、中久喜 喬評議員、中村 博評議員、藤村 豊評議員、増田紀男評議員が任期満了により退任された。

【第1号評議員(歯科衛生士専門学校長)】(定数1名)

石井 拓 男

※寄附行為第20条第2項第1号に規定する評議員(東京歯科大学歯科衛生士専門学校長)は寄附行為規定役職者の任期となるため、このたびの改選には該当しない。

【第2号評議員(法人職員)】(定数10名以上)

安 藤 暢 敏 一 戸 達 也 井 出 吉 信

井 上 孝 金 子 讓 高 野 伸 夫

西 田 次 郎 間 部 克 善 柳 澤 孝 彰

山 本 一 郎

【重任 9名】**【新任 1名】****【以上10名】****【第3号評議員(本学卒業者)】(定数17名以上)**

青 木 榮 夫 熱 田 俊之助 上 田 祥 士

江 崎 梅太郎 江里口 彰 岡 英 男

鹿 島 隆 雄 片 倉 恵 男 小 室 甲

澁 谷 國 男 関 泰 忠 高 橋 宏 光

三 宅 直 晴 矢 崎 秀 昭 吉 田 昊 哲

久保田 晃 平 井 泰 征

【重任15名】**【新任 2名】****【以上17名】****【第4号評議員(学識経験者)】(定数7名以上)**

浅 野 薫 之 千 葉 光 行 浪 貝 一 良

水 野 嘉 夫 薬師寺 仁

五十嵐 治 中 川 勝 洋 村 山 利 之

森 原 久 樹 吉 澤 信 夫

【重任 5名】**【新任 5名】****【以上10名】**

■教授就任のご挨拶

口腔健康臨床科学講座
(総合歯科)

山下 秀一郎

この度、教授会のご推挙により平成23年4月1日付けをもちまして、東京歯科大学口腔健康臨床科学講座(歯科補綴学分野)の教授に就任いたしました。伝統ある本学の教授を拝命することは、身に余る光栄でありますとともにその責任の重さを痛感しております。

私は1984年に東京医科歯科大学歯学部を卒業後、同大学の歯科補綴学第1講座に15年間所属いたしました。その後1999年に松本歯科大学に移動し、2004年からは大学院顎口腔機能制御学講座の教授として本年3月まで12年間勤務いたしました。この間、臨床研究の観点から咀嚼や咬合に関する理解を深め、その成果を、教育、臨床の現場に反映させてまいりました。歯科全体の疾病構造の変化に伴い、咬合の回復と保持が身体の健康

維持に重要な役割を果たすことが明らかになってきています。顎口腔系における咬合の役割を中心とした研究の充実を図ることで、顎機能を客観的に評価しうる明確なエビデンスを確立することができるものと考えております。

私の勤務先である水道橋病院は、その伝統と立地条件から地域の中核的な病院として大きな期待が寄せられております。医療に対する社会的要請がますます厳しいものとなっている中で、安全、快適で高品質な医療と高いレベルの教育を提供する責務があります。一口腔単位での治療計画の立案から始まり、確実な臼歯部咬合支持の回復こそ、快適な咀嚼機能を営むために最も重要であり、おいしく食事をするというQOLの向上に直結する課題であると考えております。包括的な歯科医療を展開する上で、総合歯科の担当となることは、これまでの私の経験を臨床、教育、研究に還元できる機会をいただけたものと大変感謝しております。

東京歯科大学ならびに水道橋病院の発展のために精進努力してまいっている覚悟でございますので、皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■講座主任教授就任のご挨拶



歯周病学講座

齋藤 淳

このたび、教授会のご推挙により、平成23年4月1日付けをもちまして、歯周病学講座主任教授を拝命いたしました。大変光栄であると同時に、大きな責務に身の引き締まる思いでございます。

私は平成元年に本学を卒業し、大学院を経て歯科保存学第二講座(現歯周病学講座)山田了教授のご指導のもと教育、臨床、研究に従事いたしました。歯周病原細菌に関する研究では高添一郎先生、奥田克爾先生にご指導を仰ぎ、平成6年には、ニューヨーク州立大学バッファロー校のRobert Genco教授のもとで、学外研究を行う機会をいただきました。帰国後は本学講師として勤務し、その後、仙台で地

域歯科医療に従事するとともに、わが国初の3年制歯科衛生士教育に携わり、東北大学歯学部では歯周病学の臨床講義を担当してまいりました。

平成19年に本学に復帰し、水道橋病院で臨床に従事するとともに、大学移転を控えた卒前教育体制の構築に参加させていただきました。卒後教育では、専門医、認定歯科衛生士を目指す若い人材の育成に努めてまいりました。現在、基礎研究では微生物学講座の石原和幸教授にご指導をいただき、歯周病原細菌の複数菌感染における宿主細胞侵入のメカニズム解明に取り組んでいます。今後、動脈硬化症をはじめとする全身疾患と歯周病との関連について、エビデンスを追求していきたいと願っております。再生医療が著しく進化する今、新たな歯周病の治療・予防法の開発と臨床へのフィードバックも喫緊の課題です。

私たち日本人は、東日本大震災という未曾有の危機に直面して、自己の生き方を見直さざるを得ないと感じたと思います。歯科をとりまく状況は一層厳しくなり、大学は生き残りをかけた熾烈な

戦いに晒されております。このような時代においても、私学の雄である東京歯科大学は、学生、患者そして社会から常に選ばれ、輝き続けなければなりません。そのためには建学の精神を基盤とし、一人ひとりが新たな道を切り開いて行くこと

が求められます。

これからは若い人材が志を高く掲げて活躍できる環境作りに全力を注いでまいります。今後とも皆様の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

■講座主任教授就任のご挨拶



オーラルメディスン・ 口腔外科学講座

片倉 朗

このたび教授会の御推挙により、本年4月1日より教授に昇任しオーラルメディスン・口腔外科学講座の講座主任を拝命致しました。本講座は昭和56年に日本で最初に開設されたオーラルメディスンの講座であり、平成17年にオーラルメディスン・口腔外科学講座に改称されました。診療、研究における実績はこれまでの先生方の御努力で多岐に広がっておりますが、それらいずれの領域でも外部からも高く評価される歯科医師・歯科衛生士が育成されており、その講座と診療科を担当することの重責を感じております。オーラルメディスンは歯・口腔疾患が全身に及ぼす影響や生活習慣病などの関連性を追求し、また全身疾患に起因する口腔病変の診断・治療を目的としてい

ますが、疾病構造の変化から今日の歯科医療において本領域の重要性が認識されています。また、高齢化に伴い歯科・口腔外科を受診する多くの方がmedically compromised patientであります。このようなことから総合病院での歯科医学教育・研修と並行した医学の基礎的教育・研修の必要性も高まり、今回改訂されたコア・カリキュラムにもその内容が盛り込まれました。市川総合病院の特徴を活かして、診療・研究はもとより学生ならびに臨床研修歯科医師に対する教育のさらなる充実を目指したいと考えております。また5月1日から口腔がんセンター長を拝命いたしました。センターは設立から5年が経過し、今後は3病院の関連の先生方との協力を密にしてセンターの機能と診療実績のさらなる向上を図ってまいります。

地元歯科医師会、医師会をはじめとする地域の先生方、学内・院内の教職員の方々と緊密な連携をとり、地域の中核病院においてチーム医療を担う一員として安全、良質で高度な歯科医療を提供するために邁進する所存です。皆様からの御指導、御鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

■教授就任のご挨拶



千葉病院内科

大久保 剛

この度、教授会のご推挙により平成23年5月1日付けで東京歯科大学千葉病院内科学教授に昇任いたしました。身に余る光栄であるとともに責任の重さを痛感しております。3年前、本校の教員としてご採用いただいた際、本誌上で紹介しましたように、私は大学卒業後は、30年近く消化器外科医として臨床一筋に歩んで参りました。ですが

ら着任当初は、内科医としても、教員としても不慣れで戸惑うことの連続でしたが、数多くの本学職員のご支援に守られこまできました。心より感謝申し上げます。元より浅学非才の身、皆様のご期待にどの程度応えていけるのか不安もありますが、今後の抱負を述べたいと思います。

まず診療についてですが、広く地域の方々に当院の内科の存在と、診療内容を紹介し、気軽に診療を受けていただける環境作りが最も重要なことと考えています。次に歯科医師とのコミュニケーションを円滑に行うことです。これには現行の、糖尿病と歯周病の院内パスをさらに充実させ、より緊密な連携をとることも、ひとつの有効な手段であろうと思います。また、現在院内のNSTのメンバーですので、口腔外科手術患者の栄養管理

を含む、術前、術後管理への積極的協力を心がけていきます。教育では、歯科隣接講義、外科学を担当しています。外科治療の中心である外傷・手術など侵襲に伴う病態について、できるだけ最新のエビデンスに基づいた内容を講義するように努めます。また今年度からは第1学年の健康学も担当することになり、解りやすい講義内容の提供に、

奮闘中です。

しかしながら、わたしに課せられた最大の使命は、何といても本校の学生と職員の皆様の健康管理であろうかと考えています。頼り甲斐のある内科教授を目指して精進しますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学内ニュース

■平成23年度教育職員辞令交付式

平成23年度の教育職員への辞令交付式は、最初に、4月1日(金)午前9時30分より、教授を対象として特別会議室において開催された。金子 譲学長より、臨床検査病理学講座の教授に任命された井上 孝先生をはじめ4名の教授に辞令が交付された。金子学長は挨拶の中で、大学の発展とその運営に対し、より一層の協力をお願いするとともに、教育と研究そして医療サービスを通して社会へ貢献することへの期待を語った。

続いて午前10時より、千葉校舎第4教室において、准教授以下の教育職員辞令交付式が開催された。4月1日付発令の採用(16名)、再任(16名)、昇任(2名)、任命(2名)、配置替(1名)、任用継続(1名)で助手以上の教育職員38名が集合し、金子学長、井出吉信副学長、柳澤孝彰副学長、高野伸夫千葉病院長、加藤靖明大学事務部長がご臨席のもと、菅沼弘春大学庶務課長の司会進行により、金子学長から辞令が交付された。交付終了後、金子学長からは祝辞が述べられ、大学の発展を牽引すべく今後の活躍を期待している旨の挨拶があった。

午前10時30分より、同会場において4月1日付



辞令を交付する金子学長(左):平成23年4月1日(金)、千葉校舎特別会議室

発令のリサーチ・レジデントの任用(2名)、ポストドクトラル・フェローの更新(2名)、リサーチ・アシスタントの任用(7名)・更新(1名)とティーチング・アシスタントの任用(21名)・更新(16名)、計49名が集まり辞令交付式が開催された。井上 孝大学院研究科長から辞令が交付され、その後、柳澤副学長より大学としての期待とこれからの心構えなどについての訓辞があり、辞令交付式は滞りなく終了した。



祝辞を述べる金子学長:平成23年4月1日(金)、千葉校舎第4教室

■平成23年度千葉病院レジデント辞令交付式

平成23年4月1日(金)午前9時より、千葉校舎



高野千葉病院長より辞令を受ける三條レジデント(右):平成23年4月1日(金)、千葉校舎第3教室

第3教室において、平成23年度千葉病院レジデント辞令交付式が行われた。

式は中川寛一千葉病院副病院長の開式の辞より始まり、高野伸夫千葉病院長による訓辞の後、新任レジデントおよび継続レジデントに各々辞令が交付され、式は無事に終了した。

平成23年度千葉病院レジデント（新任：19名、継続：24名、合計：43名）

※レジデントの氏名は、人事その他の欄に掲載

■平成23年度臨床研修開始式

平成23年4月1日（金）午後1時30分より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、千葉病院で研修を行う90名の臨床研修歯科医および関係者出席のもと、平成23年度歯科臨床研修開始式が行われた。

開式に先立ち、3月11日（金）午後2時46分に発生した東日本大震災で被災された方々に対し、哀悼の意をこめて黙祷を捧げた。式は杉戸博記研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長より研修歯科医を代表して天貝玲奈研修歯科医に辞令が交付された。その後、高野千葉病院長による訓辞、高橋俊之研修管理委員長および高瀬保晶総合診療科長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

市川総合病院では、医科と歯科の合同による臨床研修開始式が、平成23年4月1日（金）午後2時より、市川総合病院の第2・3会議室において開催された。当日は、西田次郎研修管理委員長から辞令交付があり、引き続き、西田研修管理委員長、外木守雄歯科プログラム責任者から、それぞれ、ご挨拶を頂いた。その後、医療情報システム操作研修が行われた。

水道橋病院では、平成23年4月1日（金）午前9

時より、水道橋校舎2階会議室において行われた。古澤成博水道橋病院研修管理委員会委員長による開式の辞に続き、臨床研修歯科医15名を紹介し、一戸達也水道橋病院長より研修歯科医を代表して合田秀一研修歯科医（プログラムA）、齋藤研太研修歯科医（プログラムB）に辞令が交付された。続いて、列席者全員で東日本大震災の犠牲者に対し黙祷を捧げ、一戸水道橋病院長による訓辞があり、無事に式を終了した。



研修歯科医に訓辞を述べる高野千葉病院長:平成23年4月1日（金）、千葉校舎歯科臨床研修医室



辞令を交付する西田臨床研修管理委員長（左）:平成23年4月1日（金）、市川総合病院第2・3会議室

■平成23年度編入学者オリエンテーション実施

平成23年4月6日(水)午前10時30分より、教養棟第5教室において編入学者オリエンテーションが行われた。例年であれば新入生と同じ会場で、これからのキャンパスライフについての説明や提出書類への記入・配布物の受け取りなどが行われるところであるが、今年は東日本大震災の影響で編入学者9名だけのオリエンテーションとなった。

■平成23年度大学院歯学研究科入学式

平成23年4月7日(木)午前10時より、千葉校舎第1会議室において、平成23年度大学院歯学研究科入学式が挙行された。東 俊文大学院教務部長の開式の辞に続き、新入生の紹介を行った。そして、新入生代表加藤 宏君に金子 譲学長から入学許可証が授与された。続いて金子学長の訓辞、井上 孝大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して加藤君が宣誓し、入学式を終了した。

■大学院オリエンテーション開催

平成23年4月7日(木)大学院入学式終了後、千葉校舎実習講義室Ⅰにおいて、本年度の大学院新入生を対象にオリエンテーションが開催された。

本年度入学者から、各人に履修簿が渡され、講義を受講した際、また指導教員から指導を受けた際には、履修内容を記載し、その都度、講義担当者あるいは指導教員の押印を受ける方式へ変更した。今回のオリエンテーションでは、井上 孝大学院研究科長、東 俊文大学院教務部長、末石研二大学院学生部長から、履修簿の取扱いや、講義の受講について詳細な説明が行われた。

■平成23年度新入生オリエンテーション実施

平成23年4月13日(水)午前9時10分より、教養棟第5教室において、新入生を対象としたオリエンテーションが行われた。

学生生活に関する事項として、井出吉信副学長より「学生生活の心構え」、河田英司教務部長より「教務部の立場から」、佐藤 亨学生部長より「学生



訓辞を受ける臨床研修歯科医:平成23年4月1日(金)、水道橋校舎2階会議室

部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」と題し、微にいき細にいき詳しく説明が行われた。

午後は、千葉病院内科 大久保 剛准教授より「健康管理について」、また中村光博学生部副部長から「校歌の紹介」があった。

最後に千葉校舎及び千葉病院の施設見学が行われ、午後4時過ぎに終了した。



真剣な表情でメモを取る新入生:平成23年4月13日(水)、千葉校舎 教養棟第5教室

■第10回試験問題作成に関するワークショップ開催

平成23年4月16日(土)午前9時30分より、水道橋校舎13階教室において、第10回試験問題作成に関するワークショップが共用試験CBT問題作成のためのアドバンス・ワークショップとして、徳島大学から松尾敬志教授を、大阪歯科大学から池尾 隆教授を講師にお迎えして開催された。

本ワークショップは、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指し、定期的実施している。

今回は、昨年度(第8回)に引き続き平成17年度から正式実施されている医療系大学間の共用試験におけるCBT問題(タイプA、順次解答2連問(W)、順次解答4連問(Q)、多選択肢2連問)の作成方法の理解を深めることを目的としたものであった。

はじめに、共用試験の概要について、次に問題の基本的な作成方法、問題タイプ別の作成方法、注意点等の説明を受けた。更に問題作成のスキルアップを目指し、5グループに分かれて、まずは個人およびグループで多肢選択式問題のブラッシュアップを行った。さらに全体で各グループのブラッシュアップしたものに関して意見を出し

合った。

当日は教育職員33名が出席し、講師の先生方も交えて活発な討議が行われ、最後に、受講者に修了証書が授与され、午後6時盛会の内に終了した。



全体発表風景:平成23年4月16日(土)、水道橋校舎13階

■第102回歯科医学教育セミナー開催

平成23年4月25日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第102回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、井出吉信副学長、河田英司教務部長から説明が行われた。

はじめに、井出副学長から、本学の平成23年度入学試験の講評が、他大学歯学部への入学状況と併せて行われ、昨年に比べ本学への志願者は回復傾向であるが、依然として歯科界の状況は厳しく、今後も継続した学生募集活動が重要であるとのことであった。

第104回歯科医師国家試験については、合格率上位を維持し11年連続私立大学で1位という結果を残したものの、昨年より低下傾向であった。また、他大学の現状や積極的な取り組みについて紹介がなされた。このような結果を踏まえ、学生態度の向上とともに、学生のレベルに合わせた丁寧で、工夫された授業の必要性を挙げて、より一層の協力を仰いだ。最後に水道橋移転の進捗状況についての説明が行われた。

続いて、河田教務部長より、「23年度の教育方針」について、説明が行われた。

まず、今回の国家試験結果の分析により、試験領域ごとの正答率や出題方式傾向の変化に着目し、今後の講義・実習や国家試験対策の取り組みに関する方針が掲げられた。次に、カリキュラム編成上の変更点やシラバスの見直し、改善すべき

点、新たな取り組みなどが紹介された。続いて、昨年度の出席状況、試験の受験資格に係わる出欠に関する注意事項、試験・成績におけるセキュリティの確保、学生による授業評価・公開授業の実施結果等の説明があり、各学年の科目試験と総合学力試験の比較・考量等がなされた。

当日は多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する井出副学長:平成23年4月25日(月)、千葉校舎第2教室

■第325回大学院セミナー開催

平成23年5月12日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第325回大学院セミナーが開催された。今回は武田孝之臨床教授を講師にお迎えして「Super Dentistをめざして」と題した講演を伺った。

10年経過症例でインプラント埋入後の骨吸収と周囲組織による審美・機能の維持についてインプラントのポジションが重要で、bone triangleを意識して埋入することが重要である。このためには、唇側の骨幅を1mm以上とることが必要で、実際の症例について検討して骨吸収量を比較すると確かに骨吸収が少ない結果となっていた。しかし、インプラントポジションを考慮せずに行った場合には、口唇の圧力のためと考えられる唇側骨の吸収が著明に認められた。一方、十分な骨量がなく、人工骨を併用したインプラント埋入後の人工骨と歯槽骨の変化について、人工骨は吸収する運命にある。そのため、インプラントは既存骨と接するように埋入する必要があることを実際に症例を挙げて示された。これらの症例はフィールド調査での臨床実感であり、EBMに基づいていないのが現状であるため、大学院生として、さまざまな点から疑問を持って研究を行い、EBMに基づいた歯

科治療の確立を目指すことが「Super Dentist」への道と結ばれた。

■第326回大学院セミナー開催

平成23年5月12日(木)午後7時より、千葉校舎第1教室において、第326回大学院セミナーが開催された。今回は前仙台社会保険病院腎センター長でIgA腎症根治治療ネットワーク代表である、堀田修先生をお迎えして「IgA腎症と口呼吸」と題した講演を伺った。

堀田先生は、以前は不治の腎臓病であったIgA腎症が現在では早期の段階であれば扁桃摘出・ステロイドパルス併用療法(扁桃摘出パルス)により根治しうる疾患であることを明らかにした医師として高名である。

現在我が国には約30万人の慢性腎臓病患者が末期腎不全により透析医療を受けている。透析医療が必要となる2大原因疾患には糖尿病性腎症と慢性糸球体腎炎があり、慢性糸球体腎炎の約半数がIgA腎症である。IgA腎症は世界中で最も頻度が高い原発性糸球体腎炎であるが、興味深いことに国により罹病率が大きく異なり、アジア、特に日本に多く欧米に少ない。堀田先生はこれまで2,000人を超える全国のIgA腎症患者の診療を行ってきた。日常診療を通じて気づいたことは、「叢生歯列」、「上顎前突」、「前歯の脱灰」、「下顎後退」、「口角下垂」、「下口唇の外反肥厚」、「口乾燥」など口呼吸と関連する容顔の特徴を持っているIgA腎症が多いことである。加湿機能とフィルター機能を備えた鼻呼吸に比べ口呼吸では咽頭が、細菌、ウイルス、粉塵、冷気などに直接暴露されやすく、また口腔内の乾燥も招き、口蓋扁桃を中心とした口腔内リンパ組織に慢性的な炎症を生じやすいと言える。したがって、口呼吸の習慣が腎臓病や皮膚関節疾患などの二次的疾患の原因となる病巣扁桃を形成する誘引となることを示唆され、多数のセミナー参加者に深い感銘を与えた。

■本年度より開始された大学院セミナー「インプラント」の開催

従来の大学院セミナーとは異なり、本年度より新しくテーマ別セミナーとして、「インプラント1～6」が開始されることになった。このセミナーは計6回で構成され、今回は第1回、第2回とし

て「臨床の問題点から臨床研究を進めるために」と題し4月28日(木)(第324回)と5月19日(木)(第327回)の両日、いずれも午後5時40分より、千葉校舎第2教室において開催され、60名以上の大学院生が参加した。演者は、質の高い数多くの臨床研究論文を発表している口腔健康臨床科学講座の山下秀一郎教授、現在インプラント関連の臨床研究を行っている口腔インプラント学講座の伊藤太一講師と佐々木穂高助教が担当された。本セミナー参加者は、3名の先生方の講演を聞くだけでなく、その後の討論にも積極的に参加し、さらに臨床研究を計画するためにCQの抽出・構造化の演習も実施された。このセミナーは従来の受動型大学院セミナーとは異なり、大学院生が能動的にセミナーに参加する形式をとっているため、参加者にとって大変充実したセミナーであったと思われる。本セミナーを聴講し、新大学院セミナーの質の高さと優れた教育効果が確信された。



講演する山下教授:平成23年4月28日(木)、千葉校舎第2教室

健康状態に影響を及ぼしていることは言うまでもない。本院における診療への取り組みの一部を紹介することで、開業医の先生方が日常臨床で遭遇する諸問題の解決の糸口となるよう、歯科だけではなく全身に関連する内容を企画した。講演は、「ドライアイ最前線—あなたもドライマウス?ドライアイ?—」(吉野真未助教(眼科))、「先天性疾患に伴う矯正治療について」(宮崎晴代講師(矯正歯科))、「歯周病のリスクマネージメントとしての禁煙指導」(齋藤 淳教授(歯周病学講座))、「水道橋病院禁煙外来の取り組み」(村井恵子看護師(内科))、「患者急変時の対応」(一戸達也教授(歯科麻酔学講座・水道橋病院長))の5題で、各講演終了後には活発な質疑応答が行われた。また、会場内および通路にて、各診療科・看護部・歯科衛生士部によるポスター発表25演題と、協賛業者5社による展示も行われ、盛会のうちに終了した。



講演する村井看護師:平成23年5月19日(木)、水道橋校舎13階A教室

■第10回水道橋病院症例報告会開催

平成23年5月19日(木)午後6時より、水道橋校舎13階A教室において、第10回水道橋病院症例報告会が開催された。この会は、紹介医の先生方との密接な医療連携を推進し、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めることを目的として毎年開催しているものである。

会に先立ち、一戸達也水道橋病院長より、日頃の御礼と挨拶があり、4月1日付で着任した山下秀一郎教授(総合歯科)および洪川義宏准教授(総合歯科)を紹介した。

今回は、「水道橋病院は、全身と口腔をつなぎます」をメインテーマとした。口腔は全身の一部であり、口腔疾患や口腔機能障害が全身的な



会場風景:平成23年5月19日(木)、水道橋校舎13階A教室

■第103回歯科医学教育セミナー開催

平成23年5月23日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第103回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯科衛生士業務の範囲」と題し、東京歯科大学歯科衛生士専門学校長の石井拓男教授から説明が行われた。

はじめに、歯科衛生士が絡んだ5つの問題提起がなされ、それらの具体的事例に関する新聞記事等が紹介された。そして、争点になる項目について法的根拠等を交えながら説明がなされた。

歯科衛生士が行った行為に法的問題がないにも関わらず、歯科衛生士の知識不足による誤った発言が社会に発信されてしまったために、歯科衛生士に対する風向きが悪くなってしまったケースもあるとのことであった。

歯科衛生士という資格が設置されたのは戦後で、まだ歴史が浅く、歯科診療の補助も、もともとは看護師の業務であった。歯科衛生士法には、診療の補助の具体的内容が定められていない点や、歯科医師の「直接の指示」の下でなければ予防処置を行うことができない点など、歯科衛生士が法的に曖昧な立場に置かれているとのことであった。

最近ではチーム医療が推進されており、歯科医師や歯科衛生士が医科疾患のための職種として位置づけられてしまっているとのことであった。

以上のような法的・歴史的背景が、歯科衛生士の業務に大きな影響を及ぼし様々な問題が生じているとのことであった。

当日は多くの参加者が集まり、あまり理解されていなかった歯科衛生士の現状について、本学全体で共有できる良い機会となった。



説明する石井教授:平成23年5月23日(月)、千葉校舎第2教室

■平成23年度第1回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年5月23日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成23年度第1回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療安全に関する研修会」として、水道橋病院リスクマネジメント部会委員長である関根秀志准教授(口腔インプラント科)と同部会委員である藤波弘州助教(総合歯科)がそれぞれ担当した。

まず、関根准教授が、「水道橋病院医療安全マニュアル」(改訂第2版)の内容に基づき、医療安全管理の基本概念について解説した。“To error is human(人は誰でも間違える)”を念頭に置き、患者の安全を確保するために、医療従事者個人のレベルでの事故防止対策および医療施設全体の組織的な事故防止対策の双方を推し進めることが重要であると説明した。更に、実践にあたっては「報告に基づく医療安全の確保を目的とした改善方策」として、リスクマネージャーを介した報告経路の確認、ヒヤリ・ハット、アクシデント報告の重要性と影響レベルの分類、更に所定のフォーマットを使用した報告書の作成・提出の手順を解説した。特にヒヤリ・ハット、アクシデント報告は医療安全を確保するためのシステム改善、教育・研修の資料とすることを目的とし、報告者が何ら不利益を受けることがないことを強調し、全教職員から日常的に報告がなされることを求めた。最後に、マニュアルにおける患者急変時の対応と連絡先に記載箇所を確認し、いざという折にマニュアルが有効活用できるよう心がけることを促した。

引き続き、藤波助教が「あるべき病院の環境」の具体例の一つにある「医療安全のための身だしなみ」について解説した。まず、コミュニケーションにおける視覚情報の持つ影響力についてデータを



説明する関根准教授:平成23年5月23日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

用いて解説し、患者の満足を獲得できる医療サービスの実践にあたり襟を正し、身だしなみを整えることの重要性を解説した。その後、リスクマネジメント委員会で策定した職種ごとの身だしなみの注意点について、具体的に写真を示しながら解説した。

今回の研修会では、水道橋病院における医療安全管理に対する教職員の関わり方について、基本となる指針から多数の具体的な事項まで幅広い内容が網羅されており、参加者は終始、熱心に聴講していた。



解説する藤波助教:平成23年5月23日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

■坂本潤一郎助教 NPO法人日本歯科放射線学会奨励賞を受賞

平成23年5月25日(水)から29日(日)に開催された特定非営利活動法人日本歯科放射線学会 第18回国際歯顎顔面放射線学会併催 第52回学術大会(広島国際会議場・広島)において、歯科放射線学講座の坂本潤一郎助教がNPO法人日本歯科放射線学会奨励賞を受賞した。

本賞は日本歯科放射線学会誌に掲載された論文の中で学術上の優秀な業績であると認められ、今後のさらなる研究発展が期待される者に贈られる賞で、学術委員会によって選考される。受賞論文は、“Optimum conditions for detecting the inferior alveolar artery using phase-contrast magnetic resonance angiography Oral Radiology, 26: 9-15, 2010.”で、高分解能表面コイルを用いた非造影MRIによる下歯槽動脈の描出を健常ボランティアにて試みたものである。本研究から非造影MRIにおいて下歯槽動脈を描出することは適切なパラメータを用いることで可能であることが実証された。本撮像法は造影禁忌患者にも適応でき、

顎骨内病変と下歯槽動脈との関係についてより詳細な情報が得られる可能性がある。このことは、診断精度の向上および外科手術計画に対する有用な情報提供につながると考えられる。今後の研究の発展が期待される。



受賞した坂本助教(左)と有地榮一郎 日本歯科放射線学会理事長(右):平成23年5月25日(水)、広島国際会議場

■齋藤 淳教授 日本歯周病学会教育賞を受賞

平成23年5月26日(木)から28日(土)まで、第54回春季日本歯周病学会学術大会(大会長:福岡歯科大学 坂上竜資教授)が福岡市で開催された。27日には学会賞の表彰式が執り行われ、歯周病学講座の齋藤 淳教授が、第4回日本歯周病学会教育賞(2010年度)を受賞した。本表彰制度は、歯周病学教育の発展に寄与した学術発表を表彰することを目的としており、表彰対象は、日本歯周病学会学術大会において、歯周病学教育の発展に寄与する学術発表となっている。今回の受賞演題は、第53回秋季日本歯周病学会学術大会(高松)において発表された「歯周病学の卒後研修におけるフォーマルディバートの導入について」(齋藤 淳、藤波弘州、角田正健、山田 了)であり、本学水道橋病院の卒後教育における能動的学習方略の導入と評価についての研究である。水道橋病院は日本歯周病学会の研修施設として認定されており、これまで齋藤教授、二階堂雅彦臨床教授が中心となり、多くの歯科医師、歯科衛生士が学会認定医、専門医、認定歯科衛生士取得を目指して研修を受けている。臨床歯周病学に関する定期的な抄読会、症例発表会、実習、臨床研修が教育の柱となっているが、平成22年に新たにフォーマルディバートが導入された。多角的な評価を取り入れた能動的学習方略として本研究の教育学的意義は大きく、歯周病学の教育に貢献できる有意義な内容であるとして

高く評価された。尚、本学術発表はその後学術論文として発表された (Saito, A. and Fujinami, K. Introduction of formal debate into a postgraduate specialty track education programme in periodontics in Japan. European Journal of Dental Education, 15: 58-62, 2011)。



齋藤教授(右より2人目)と水道橋病院総合歯科ペリオチーム:平成23年5月28日(土)、福岡市

■平成23年度大学院新入生学内総合セミナー開催

平成23年度大学院新入生学内総合セミナーが、平成23年5月26日(木)から27日(金)の2日間、千葉校舎実習講義室Ⅰ・Ⅲにおいて開催された。本年度は、東日本大震災の影響もあり、学内での開催となったが、本年度大学院1年次生36名が参加した。本セミナーは大学院生の自覚を促す意味も含め「時間厳守」を掲げて行われた。

初日は、午後1時に井上 孝大学院研究科長による開講式後に、各大学院生による2分間の自己紹介が行われた。自己紹介は、新谷益朗大学院教学担当から出される質問について答えながら行うもので、真面目な自己紹介もあれば、時には笑いを誘う自己紹介もあり、大学院生間のアイスブレイキングにつながった。

続いて、末石研二学生部長の座長により、オーラルメディスン・口腔外科学講座 片倉 朗教授による「位置づけを意識した研究を 臨床から基礎への展開」と題した講演が行われ、先生の経験や、研究を通して出会う人との大切さについてお話された。次に新谷大学院教学担当による、今後の研究生生活に欠かせない学会発表や誌上発表時における個人情報保護に関する講演があり、受講生は熱心に耳を傾けた。その後、場所を幕張のホテルに移し、学生・教員・事務員相互の親睦を目的とした懇親会が行われた。

2日目は、午前9時に集合し、前日、新谷大学院教学担当の問題提示について3つのグループに分かれて討議を行い、最後に全員の前で各グループの代表が討議内容を報告し、大学院教員からのコメントを含めた質疑応答が行われた。

午後は、再び各グループに分かれ、各自がセミナー前に選んだ英語論文について、自分の考えを交えながら報告を行った。

最後に、東 俊文大学院教務部長の座長により、順天堂大学医学部免疫学教室 垣生園子客員教授による「胸腺に魅せられて」と題した講演が行われ、医学的な知識のみならず、長年研究に携わってきた先生の豊富なお話をお話しされた。その中で、先生は女性の研究者としての在り方も解かれ、男女を問わず大学院新入生のモチベーションアップにつながったものと思われる。



グループ討議風景:平成23年5月27日(金)、千葉校舎実習講義室Ⅰ



集合写真:平成23年5月27日(金)、千葉校舎実習講義室Ⅰ

国際渉外部レポート

■英国Sheffield大学より見学生来校

平成23年5月9日(月)より5月13日(金)まで、英国Sheffield大学歯学部5年生、Emilie Abrahamさんが、Sheffield大学のElective Studyの一環として東京歯科大学を見学するため来校した。

Emilieさんは、来校した9日は千葉病院と学内、および解剖学講座の講義を見学し、10日は口腔外科の外来見学、11日は口腔外科の手術見学および保存科の外来見学、12日は市川総合病院 歯科・口腔外科の外来見学を行った。13日は、口腔インプラント科の外来見学を行った後、金子 譲学長と面会し、Certificateを受領した。

Sheffield大学からのElective Studyのための来校は今回で3回目となるが、受け入れていただく

各講座にご協力をお願いすると共に、今後さらに体制を整えたい。



金子学長(右)よりCertificateを受領したEmilie Abrahamさん:平成23年5月13日(金)、千葉校舎学長室

学生会ニュース

■学生会主催新入生オリエンテーション開催

平成23年4月16日(土)午後1時より、教養棟第5教室において、学生会主催による恒例の新入生オリエンテーションが開催された。当日は多くの新入生が参加して熱気あふれるオリエンテーションとなった。

初めに、主催者である木村基善学生会総務委員長(第5学年)より、学生会の活動内容について説明があった。「入学おめでとうございます。自分は3年生の時に東歯祭実行委員長を務めたり、国際医療研究会に所属して多くのボランティア活動に積極的に参加したり充実した学生生活を送っております。新入生の皆さんも同じように楽しく充実した学生生活を送っていただきたい。」と挨拶があった。続いて、東歯祭実行委員を代表して井上高暢君(第3学年)より東歯祭について、また齋藤 馨前歯科学生交流会局長(第5学年)より延世大学校歯科大学との交流プログラムについて説明があった。

引き続き運動系・文化系それぞれのクラブ・同好会の紹介が午後1時20分から午後2時30分と午後2時40分から午後4時00分の2部構成で行われた。プロ顔負けのプロモーションビデオを上映するクラブや普段の活動をありのまま紹介するクラブなど様々なプレゼンテーションがなされた。ま

た、Big Band Jazz部、管弦楽部、ダンス部など演奏や踊りを披露してアピールするクラブもあった。例年通り歯科衛生士専門学校生もオリエンテーションに参加し、午後4時20分に終了した。出口には各クラブの先輩が待ち受けており、所属するクラブの名前が呼ばれると教養棟が揺れるような大歓声が幾度となく起こった。今年も大盛況のうちに学生会主催新入生オリエンテーションを終えることができた。



生演奏で新入生にアピールするMLS:平成23年4月16日(土)、千葉校舎教養棟第5教室

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

金子 譲、一戸達也[ほか]執筆 歯科麻酔学 第7版 医歯薬出版、2011

高野伸夫、井上 孝著 チャートでわかる口腔病変診断治療ビジュアルガイド、医歯薬出版、2011

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご報告くださいますようお願いいたします。

■図書館館内ツアー開催

平成23年4月13日(水)から28日(木)までの間、新入生を対象に千葉校舎図書館にて「図書館館内ツアー」を開催した。施設案内を中心に、利用したい図書の探し方や貸出・返却方法の説明を行った。期間中に14名の参加があった。

■阿部潤也閲覧係長 私立大学図書館協会研修分科会で講演

平成23年5月26日(木)、東京農業大学世田谷キャンパスにおいて開催された、第1回私立大学



講演する阿部潤也閲覧係長: 平成23年5月26日(木)、東京農業大学世田谷キャンパス

図書館協会東地区部会研修分科会に阿部潤也閲覧係長が講師として招かれ「機関リポジトリを知る」と題する講演を行った。機関リポジトリの概要、国内外の機関リポジトリの状況、著作権やコンテンツ収集の課題を説明するとともに、東京歯科大学学術機関リポジトリの紹介をした。

■「30分でわかる!文献検索講習会」を開催

平成23年5月30日(月)から6月3日(金)にかけて、医学文献検索講習会を図書館2階グループ学習室において開催した。医学文献の検索に役立つデータベース「医中誌WEB (Ver.5)」と「PubMed」について基礎編・応用編を設け、それぞれ30分程度で解説・演習を行った。基礎編では、基本的な検索方法と文献入手法について、応用編ではタグや履歴を利用した検索、また研究デザインで絞り込む検索などの演習を行った。全日程で44名の参加があり、アンケートでは、ほとんどの方が今回の講習会の内容について、今後文献検索を行う上で「大変役に立つ」または「役に立つ」と回答しており、大変好評を得た結果となった。



文献検索講習会風景: 平成23年5月30日(月)、千葉校舎図書館グループ学習室

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成23年度歯科衛生士専門学校入学式

歯科衛生士専門学校第63期生の入学式は、4月11日(月)午前10時より、千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新入生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気の中で挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、国歌斉唱に引

き続いて、高橋俊之副校長から新入生ひとり一人が呼名・起立により紹介され、石井拓男校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、学校法人東京歯科大学理事長の熱田俊之助先生、金子 譲東京歯科大学学長ならびに中井麗子歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞をいただいた。在校

生を代表して3年生の後藤麻菜香さんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の荻野あずささんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の平松由衣さんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、杉山哲也教務部長から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーション

を受け、入学式のすべての日程を終了した。



入学式後の集合写真:平成23年4月11日(月)、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校 長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多くのご来賓をお迎えして、平成二十三年度の入学式を挙行出来ますことは喜ばしい限りです。この喜びとともに、丁度一月前の本日、東日本に発生しました大震災に思いを馳せ、被災地に、一刻も早く本当の春を迎えられる時の来ることを、皆様とともにころから願いたいと存じます。

新入生の皆様は、大きな希望と期待を持って今日の日を迎えたことと思います。東京歯科大学歯科衛生士専門学校で皆さんは、歯科衛生士という国が資格を認める特別な職種に就くためにこれから三年間勉強していくことになります。

すでに、多くのマスコミに取り上げられておりますが、今回の大震災におきまして、避難所における歯磨きに代表される口腔ケアの重要性が全国的に深く認識されて来ております。合わせて、歯科衛生士が国民にとって大切な職種であることも理解されております。国民の期待に応えるためにも、これからの三年間は、今までの小中高の各学校ですごしたものと全く違う学生生活となります。

医療従事者である歯科衛生士は、一般の人が行うことのできない、特別な行為を行うことが許されています。そのために、医学に関する多くの知識を持つことと、レベルの高い技能を身に付けることが求められます。また、病んだ人々に対応するための高い職業倫理が求められます。本校はそのことを学ぶのに絶好の環境を皆さんに提供いたします。

歯科大学の中にこの歯科衛生士専門学校があることはすでにご存知のことと思います。歯科大学の教授をはじめとする多くの教員が皆さまの学習を支援します。毎日の外来患者約千名という東京歯科大学千葉病院が、皆さんの臨床実習の場として用意されています。また、市川には病床数五百七十という千葉県下有数の東京歯科大学の総合病院があり、医科歯科連携という、現在最も求められている領域の学習に最適の場を提供しています。現在全国に百六十を超える歯科衛生士の学校がありますが、本校のような教育環境を持つ学校は他にありません。皆さんは、卒業して社会に出たときに、自分たちがいかに素晴らしい学校で学んだのかを実感すると思います。また、ここで培った歯科衛生士としての力を社会に役立てることができる喜びを強く感ずることができると思います。

皆さんは、これまでの学びの場で多くの友人を持って来たことと思います。これからの三年間で皆さんの中で生まれる友情は、目指す方向が一つであり、それが生涯に渡るものであることから、志を等しくする同志としてのこれまでにない友情となります。東京歯科大学歯科衛生士専門学校における皆さんの生活が実り多いものとなることを期待して、私の訓辞といたします。

誓 詞

第 63 期新入生代表

荻野 あずさ

学校長訓辞の意を体して克く学生の本分を尽し、必ず素志を貫徹し、本校の伝統を昂揚するよう努めることを硬く誓約いたします。

■平成23年度学生会総会ならびに新入生歓迎会開催

新入生 45 名を迎え、平成 23 年度歯科衛生士専門学校学生会総会が 4 月 16 日（土）午前 11 時 30 分より、千葉校舎厚生棟 1 階において開催された。学校からは、石井拓男校長、高橋俊之副校長、杉山哲也教務部長、杉原直樹学生部長および専任教員が出席した。

学生会会長の長野なつ美さんの挨拶のあと、赤城鞠沙、中川成美さんの司会進行により、平成 22 年度活動報告と会計決算が承認され、続いて平成 23 年度活動計画案と予算案が満場一致で可決承認された。



学生全員が参加しての新入生歓迎会：平成23年4月16日（土）、千葉校舎厚生棟1階

総会に引き続き、新入生歓迎会が開催され、テーブル一杯の色とりどりの食事をとりながら談笑し、和やかな雰囲気のうちには進行した。最後にビンゴゲームで大いに盛り上がるなか、午後 1 時閉会となった。

■1・2年生学内研修セミナー開催

第 1 学年と第 2 学年合同の学内研修セミナーが平成 23 年 5 月 13 日（金）に、東京歯科大学歯科衛生士専門学校において行われた。グループディスカッションとその発表を行うことで、問題発見、整理、解決に取り組み、協力し合う態度を身につけ、さらに、学生同士の親睦を深めることを目的として毎年同様のセミナーを開催している。

午前 9 時より杉原直樹学生部長の司会で開講式がはじまり、石井拓男校長からご挨拶をいただいた。最初のプログラムでは、コミュニケーショントレーニングとしてコンセンサスゲームを 1・2 年生合同で 12 グループに分かれて行い、まずは全員で緊張感をほぐした（アイスブレイキング）。

10 時 10 分より、セッション I として学年別に分かれ、1 年生は、「低下しつつある日本の子供の学力をのばすには」と「歯科衛生士を目指す人を増や

すには」の2つのテーマ課題について、2年生は「社会人として、認めてもらうには」と「歯科衛生士を目指す人を増やすには」の2つのテーマ課題について、それぞれ6グループに分かれKJ法に基づいた問題点の抽出と島分け、二次元展開法に沿った重要度と緊急度について論議した。11時40分よりグループ発表（発表5分、質疑応答2分）を行い、活発な論議が行われた。

午後12時40分からのにぎやかな昼食ののち、2年生による「口腔清掃用具に関する調査」に関する報告会を行った。6つのグループに分かれ、歯ブラシ、歯間ブラシ、デンタルフロス、歯磨剤・洗口剤、代用甘味料・カムカム食品や義歯清掃グッズ・舌ブラシについて、調査結果の発表が行われた。やっと学校生活に慣れ始めたばかりの1年生も、興味深く耳を傾け、質問をする姿も見られた。

午後2時より、セッションⅡとして1・2年生合同で、メインテーマとして「震災を通して考える今、私達にできることは何か」を掲げ、「外国人観光客、労働者の減少が招く被害を防ぐには」、「風評被害に惑わされないためには」、「災害時に高齢者・障害者を守るには」、「義援金を有効利用するには」の4つの課題について、12グループに分かれKJ法に基づいた問題点の抽出と島分け、二次元展開法に沿った重要度と緊急度について論議した。3時30分よりグループ発表（発表4分、質疑応答2分）を行い、午前にも増して活発な論議が行われた。

4時30分から自己評価表と報告書をまとめ、

4時45分より杉山哲也教務部長の司会で閉講式が始まり、今回の合同研修のまとめと校歌の練習、コンセンサスゲームの優勝グループへの表彰と記念品の贈呈を行い、最後に高橋俊之副校長からの挨拶ですべての日程を終了し解散した。



グループでのディスカッション:平成23年5月13日(金)、千葉校舎実習講義室Ⅱ



グループのまとめの発表:平成23年5月13日(金)、歯科衛生士専門学校第1教室

人物往来

■国内見学者来校

市川総合病院

○埼玉社会保険病院(職員7名)

平成23年5月13日(金)病院見学

○大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座
医療情報学(研究生1名)

平成23年5月23日(月)病院見学

■海外出張

○白石 建教授(市病・整形外科)

国際低襲脊椎外科学会にて招待講演のため、4月1日(金)から6日(水)まで、トルコ・アンタリアへ出張。

○大野啓介大学院生(口腔外科)

American Association for Cancer Research 102nd Annual Meetingで発表のため、4月2日(土)から7日(木)まで、アメリカ・オーランドへ出張。

○外木守雄准教授、伊川裕明大学院生(オーラルメディシン・口腔外科)

2011 American Academy of Oral Medicine 65th Annual Meetingに参加、および発表のため、外木准教授は4月4日(月)から8日(金)まで、伊川大学院生は4月5日(火)から10日(日)まで、プエルトリコ・サンファンへ出張。

○小川信二講師(市病・外科)

9th International Gastric Cancer Congressで発表のため、4月20日(水)から23日(土)まで、韓国・ソウルへ出張。

- 白石 建教授、山根淳一助教、青山龍馬助教(市病・整形外科)

第2回アジア太平洋頰椎外科学会に参加、および発表のため、4月27日(水)から、白石教授は5月1日(日)まで、山根助教、青山助教は4月30日(土)まで、韓国・釜山へ出張。

- 眞木吉信教授(社会歯科)

第6回中国老年口腔医学学会にて講演のため、4月28日(木)から5月2日(月)まで、中国・昆明市へ出張。

- 島崎 潤教授、大本雅弘助教、秦野響子臨床専修医、比嘉一成研究技術員(市病・眼科)

The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2011 Annual Meetingに参加、および発表のため、島崎教授は4月29日(金)から5月6日(金)まで、大本助教は4月28日(木)から5月4日(水)まで、秦野臨床専修医は4月30日(土)から5月7日(土)まで、比嘉研究技術員は4月29日(金)から5月7日(土)まで、アメリカ・フォートローダーデールへ出張。

- 平沢 学助教(水病・眼科)

The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2011 Annual Meetingで発表のため、4月30日(土)から5月7日(土)まで、アメリカ・フォートローダーデールへ出張。

- 高野正行准教授(水病・口腔外科)

The 4th International Conference on Advanced Digital Technology in Head and Neck Reconstructionで発表のため、5月3日(火)から10日(火)まで、ドイツ・フライブルグへ出張。

- 金子 譲学長(大学)

The 4th International Conference on Advanced Digital Technology in Head and Neck Reconstructionの日本部会発足式に出席、およびフライブルグ大学視察のため、5月3日(火)から10日(火)まで、ドイツ・フライブルグへ出張。

- 宇治川清登助教、宮本 郷レジデント(オーラルメディシン・口腔外科)

The 4th International Conference on Advanced Digital Technology in Head and Neck

Reconstructionで発表のため、5月3日(火)から10日(火)まで、ドイツ・フライブルグへ出張。

- 武井 泉教授(市病・内科、糖尿病・内分泌センター)

International Federation Clinical Chemistry HbA1c標準化委員会に参加のため、5月11日(水)から18日(水)まで、イタリア・ミラノ、およびドイツ・ベルリンへ出張。

- 林 郁恵レジデント、田井愛子レジデント、小貝隆広大学院生(矯正歯科)

111th American Association of Orthodontists 2011 Annual Sessionに参加のため、5月13日(金)から18日(水)まで、アメリカ・シカゴへ出張。

- 牧野正志レジデント(水病・矯正歯科)

111th American Association of Orthodontists 2011 Annual Sessionで発表のため、5月13日(金)から18日(水)まで、アメリカ・シカゴへ出張。

- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)

American Academy of Cosmetic Dentistry Scientific Sessionで発表のため、およびニューヨーク大学での国際プログラム指導教員としての会合に出席のため、5月18日(水)から25日(水)まで、アメリカ・ボストン、およびニューヨークへ出張。

- 水口 清教授(法歯)

International Islamic University Malaysia, Kulliyah of DentistryにおけるProfessional examinationのExternal examinerとして、5月18日(水)から22日(日)まで、マレーシア・クアランタンへ出張。

- ビッセン弘子教授(水病・眼科)

Global IOL Advisory Board Summitに出席のため、5月22日(日)から25日(水)まで、イタリア・ローマへ出張。

- 外木守雄准教授(オーラルメディシン・口腔外科)

Centro Nazionale Adroterapia Oncologicaで招待講演のため、5月24日(火)から30日(月)まで、イタリア・ミラノへ出張。

- 山口剛史助教(市病・眼科)

Massachusetts Eye and Ear Infirmary Cornea Division, Imaging Centerとの研究打ち合わせのため、およびCornea Visiting Professor Lecture Series, Victor L Perez, MDに参加のため、5月24日(火)から28日(土)まで、アメリカ・

ボストンへ出張。

- 森 光晴助教、高橋辰郎助教(市病・心臓血管外科)
アジア心臓血管外科学会、およびアジア胸部外
科学会で発表のため、5月26日(木)から29日(日)
まで、タイ・プーケットへ出張。
- 小田 豊教授、河田英司教授、吉成正雄教授、

服部雅之講師、武本真治講師、松本直也大学院
生(歯理工)

International Dental Materials Congress 2011
に参加、および発表のため、5月27日(金)から
29日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

大学日誌

平成23年4月

- | | |
|---|---|
| <p>1 (金) レジデント辞令交付式
専任教員(教授)辞令交付式
専任教員(准教授以下)辞令交付式
RR・PF・RA・TA辞令交付式
歯科臨床研修開始式
防火・防災安全自主点検日
採用者辞令交付式(市病)
平成23年度看護部新採用者オリエンテー
ション(~8日)(市病)
レジデント・職員新規採用者・役職任命
等辞令交付(水病)
平成23年度歯科医師臨床研修開始式・オ
リエンテーション(水病)
臨床専門専修科生全体集合(水病)</p> <p>4 (月) 医療連携委員会
プログラム責任者・副責任者会議
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始</p> <p>6 (水) 編入学生オリエンテーション
2・3・4年生オリエンテーション
6年生臨床実習プログレス期間開始
リスクマネージメント部会
ICT会議
口腔健康臨床科学講座会(水病)</p> <p>7 (木) 2・3・4年生前期授業開始
大学院入学式
感染制御委員会(市病)
治験審査委員会・倫理委員会(市病)</p> <p>8 (金) 大学院運営協議会
5年生(118期)オリエンテーション
5年生(118期)登院式
第7回補助金管理運営会議
総合講義検討委員会
ICLS講習会(市病)
ICT委員会(市病)</p> | <p>8 (金) 感染予防対策チーム委員会(水病)</p> <p>11 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
5年生(118期)登院器材刻印・検査
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
教養科目協議会
歯科衛生士専門学校入学式</p> <p>12 (火) 臨床修練委員会
臨床教授連絡会
平成23年度入学式
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテー
ション(~13日)</p> <p>13 (水) 新入生オリエンテーション・学内見学
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
看護部運営会議(市病)
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)</p> <p>14 (木) 1年生前期授業開始
千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始
医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)</p> <p>15 (金) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日</p> <p>16 (土) 第10回試験問題作成に関するワーク</p> |
|---|---|

- シヨップ[於:水道橋校舎]
- 16 (土) 学生会主催新入生オリエンテーション
患者サロン(市病)
- 18 (月) 医療連携委員会
- 19 (火) 褥瘡対策委員会(市病)
給食委員会(水病)
- 20 (水) 機器等安全自主点検日
ICU運営委員会(市病)
CPC (市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病)
- 21 (木) 部長会(市病)
- 22 (金) クリニカルパス委員会(市病)
災害対策実施部会(市病)
- 25 (月) 第102回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
- 26 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
医療サービスに関する検討会
- 27 (水) 看護部運営会議(市病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
- 28 (木) 管理診療委員会(市病)
東洋高校歯科検診(水病)
- 11 (水) 公認会計士監査(~ 16日)
リスクマネジメント部会
ICT会議、看護部運営会議(市病)
業務改善委員会(市病)
リスクマネジメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
臨床検査室委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
- 12 (木) 医療安全研修会
感染制御委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
- 13 (金) 電気設備法定検査(~ 15日)
歯科衛生士専門学校1・2年生学内研修セミナー
ICT委員会(市病)
省エネルギー推進委員会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 16 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
教養科日協議会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 17 (火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
決算監査(~ 25日)(法人)
- 18 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
衛生委員会
CPC (市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病)
- 19 (木) 千葉校舎課長会
業務連絡会
情報システム管理委員会
- 平成23年5月**
- 2 (月) 1～4年生休講日
プログラム責任者・副責任者会議
防火・防災安全自主点検日
監査法人会計監査(~ 10日)(市病)
- 6 (金) 医療連携協議会
- 9 (月) 大学院運営協議会
地域連携委員会(市病)
- 10 (火) 教務部(課)事務連絡会
教育WS「基礎科目」作業部会
総合講義検討委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
口腔健康臨床科学講座会(水病)

- | | |
|---|--|
| 19 (木) 高度・先進医療委員会
部長会(市病)
水道橋病院症例報告会(水病) | 26 (木) 平成23年度第1回研修管理委員会・協力
型研修施設説明会(水病) |
| 20 (金) 機器等安全自主点検日
1ヵ月フォローアップ研修(市病) | 27 (金) 医療安全新人研修(市病)
クリニカルパス委員会(市病)
災害対策実施部会(市病) |
| 23 (月) 第103回歯科医学教育セミナー
教職員研修会(水病) | 28 (土) 平成23年度第1回病院見学会(市病) |
| 24 (火) 5・6年生健康診断
図書委員会 | 30 (月) 平成23年度定期健康診断実施(～6/3)
プリセプターフォローアップ研修(市病)
電子カルテシステム運用管理委員会(市病) |
| 25 (水) 看護部運営会議(市病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) | 31 (火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
理事会(法人)
評議員会(法人) |
| 26 (木) 4年生健康診断
大学院新入生学内総合セミナー(～27日)
管理診療委員会(市病) | |

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二
椎名 裕 新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩
（平成23年5月現在）



編集後記

平成23年4月12日(火)、東京歯科大学の122期生として、あらたに128名の新入生が入学しました。そして、第2学年にもさまざまな社会経験を持つ9名の編入生が加わりました。東日本大震災の影響で1週間延期して行われた待望の入学式です。

学長訓辞の中で、教養ある社会人の育成、質の高い専門家の育成、知識・技術の伝達と新しい知見の創造、そして、多様な人生設計への支援、という、大学における4つの教育目標が示されました。将来の日本の歯科医療を担い、開拓する大切な人材として入学してきたひとりひとりが、これから、たくさんの喜びや苦労を経験しながら、さまざまな形や色の個性を持つ、ひとりの豊かな人間として伸びていくことが期待されます。

血脇守之助先生の「歯科医師である前に人間であれ」との言葉は、どのような形で新入生のこころの中に育っていくのでしょうか。学生たちの教育にさまざまな形で携わるひとりひとりの思いが、次の世代を担う彼らのなかに伝わってきます。

第122期の代表は阪上隆洋くん。新入生と編入生137名の思いを宣誓の言葉にして、晴れて東京歯科大学の仲間に加わりました。その印として、東京歯科大学の徽章が齋藤菜月さんの襟に付けられました。これからはじまる6年間のその時々、そこにしっかりと刻み込まれていくことでしょう。

10年後、東京歯科大学を卒業し、卒後研修期間を終えてそれぞれの場所で一人前の歯科医師として働き始めた彼らが、創立130周年を迎えた大学と共に、どんな思いで歯科医療の未来を語っているのでしょうか……。

そして、もうひとつのストーリーとして、歯科衛生士専門学校には、4月11日(月)、第63期の新入生46名が入学しました。学生代表は荻野あずささん。この中からも、将来の歯科衛生士のリーダーたちが育っていきます。

研修医として歯科医師のはじめの一步を踏み出した人、大学院へ入学して臨床・基礎の研究に触れた人、新しい勤務先として配属された人……、それぞれの春が始まりました。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「はじまりの季節」
咲き誇る真っ白な花びらの1つひとつに、これからどんな色が差されていくのでしょうか……。